



# 広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.  
1984

例会日・木曜日 12:30~13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会 長 中村 哲朗  
幹 事 森信 秀樹

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp  
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

「ロータリーの未来は  
あなたの手の中に」

本年度会長テーマ

「ロータリーの心で周囲を包もう」

## 「ロータリー親睦活動月間」

2010年6月3日 第1960回例会

### ◆ 会長時間 ◆

中村(哲)会長



6月に入り衣替えの季節になりました。6月1日にある会合に出席いたしましたら、早速クールビズ姿の方々がおられました。私自身は暑がりですので、会社に居る時は、

会社の半袖制服を着用しています。

昨日のニュースで日本の政権政党のトップ2名が辞任するとの報道がされました。私は政治の世界の力学について全く分かりませんが、世界の中の日本がどのように存在して行くのか、経済、外交、教育、雇用、年金等課題は沢山ありますが、独立国としてあるべき方向を定め、政権が変わろうと日本国として変えてはならない部分は継続性を持って政策を進めて頂きたいと思います。

本日の例会終了後、本年度最後の定例理事会を開催いたします。あっという間の一年間でしたが、皆様のご協力で何とか無事に棧橋に係留できそうです。終り良ければすべて良しという格言もありますので、最後まで気を抜かないでクラブ運営を行ってまいります。

### ● 会務報告

森信幹事

※例会終了後、4階「松の間」において6月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

※例会臨時変更

6月4日(金) 広島城南RC

「広島東南RC・広島中央RC・  
広島城南RC合同例会・懇親会」

6月7日(月) 広島東南RC、広島中央RC

「広島東南RC・広島中央RC・  
広島城南RC合同例会・懇親会」

6月18日(金) 広島城南RC 休会

6月22日(火) 広島安芸RC 休会

広島西南RC「最終夜間例会」

6月23日(水) 広島陵北RC「最終夜間例会」

6月25日(金) 広島城南RC「最終夜間例会」

6月28日(月) 広島東南RC、広島中央RC、  
広島廿日市RC「最終夜間例会」

6月29日(火) 広島西南RC 休会

6月30日(水) 広島東RC、広島陵北RC 休会

🌸 祝 6月お誕生日おめでとうございます。🌸

(5名)

宮崎君 (2日)

羽井君 (5日)

村上(昇)君 (7日)

荒川君 (11日)

堀江君 (14日)



## 出席報告 竹本委員

本 日 (6月3日・木曜日)

会員数 86名 出席者 70名

欠席者 16名 ご来客 0名

ご来賓 1名 ゲスト 1名

計 72名

前々回(5月20日・木曜日)

出席率 100%



## ●スマイルボックス SAA 前橋委員

😊中村(哲)君、田中君 自主申告

去る5月31日に開催されました社団法人広島ゴルフ倶楽部(鈴が峰コース)の総会後の理事会において中村哲朗が副理事長に、田中健志が名誉書記にそれぞれ就任いたしました。ご来場頂くお客様方が気持ちよくプレーして頂けるゴルフ場になるよう微力を尽くす所存です。広島西ロータリークラブの皆様のご支援ご協力をお願いします。(二人で大枚)

## ■卓 話



### 頼山陽の周辺 見延 典子氏

江戸後期の文人で、『日本外史』として知られる頼山陽は1780年生まれで、本年(2010年)は生誕230年にあたる。山陽の母の梅颯は1760年生まれなので、生誕250年という節目の年にあたる。

山陽については拙著『頼山陽』(2007年 徳間書店)で、信念のまま生きた53年の生涯を描いた。

『日本外史』などの著述家、史家、書家として優れた業績を残し、京都の詩壇でも活躍するなど、多彩な才能に恵まれた人物として、他者の追隨を許さないところがある。

また私生活においても旅を愛し、酒を愛し、食通であり、骨董や水石の収集を行い、平曲の語りまでするという文化文政期を代表する新しいタイプの文人であった。

幸い、以前に比べれば、山陽という人物をわかっていただけになってはきたが、さらに認知度を上げたいと、昨年からは「頼山陽ネットワーク」を立ち上げた。

全国には頼山陽ゆかりの地が点在し、さまざまな団体が活動しているので、横の連携を図ることで、親睦を深め、情報交換などできないだろうかと考え、参加を呼びかけたところ、北は札幌、南は熊本まで50団体が登録してくれた。

例えば広島県竹原市では毎年5月に「頼山陽まつり」をしており、地元の竹原高校の生徒たちが山陽や春風に扮装して、保存地区を練り歩いている。

大分県中津市(耶馬溪)では毎年11月に「筆供養」をして、山陽の顕彰を進めている。

そうかと思うと、熊本県苓北町では毎年11月に全国詩吟大会を催し、山陽の「天草に泊す」を小学生からお年寄りまで、日がな一日吟じ続けているという具合である。

それぞれ熱心な方々がいるのに、その土地だけの催し物で終わらせるのはもったいない。しかもその他の地域ではほとんど知られていないのは残念である。

というわけで、今は年4回「頼山陽ネットワーク通信」を発行し、各地での取り組みなどを紹介する活動もはじめた。

ゆくゆくは互いの地を訪問しあうなど、交流をさらに深められればと願っている。

昨年は頼山陽記念文化財団の研修旅行で、30名の参加者と、滋賀県彦根、岐阜県大垣方面の1泊2日のツアーに出たところ、彦根城近くの井伊直弼ゆかりの埋木舎を見学中、伊井家現当主の井伊直岳氏が挨拶に見えるというハプニングがあった。山陽の3男の三木三郎が安政の大獄で処刑されて150年という節目の年にふさわしい出来事として、参加者一同感動したものであったが、このような交流を通じて、時代の移り変わりを体験できるのは、誠に意義深いことだとも思った。

それぞれの団体の高齢化、また財政の問題など課題は多いが、どんな土地にも歴史があるし、歴史を無視しての町づくりなどできない。

模索しつつ、自分にできることを続けていきたいと思っている。